令和元年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

入賞者（平成30年度受賞当時）

小学校の部

特　選

文部科学大臣賞

古屋絵梨果	山梨学院小学校（山梨県）	2年

農林水産大臣賞・国土緑化推進機構会長賞

佐々木日和	宮城県石巻市立中津山第二小学校 （国土緑化運動ポスターとして採用）	4年

入　選

国土緑化推進機構理事長賞

田中　佑奈	岩手県盛岡市立城北小学校	2年
野中　美玖	岩手県北上市立江釣子小学校	5年
加藤明香里	千葉県印西市立小林小学校	2年
関西凰次朗	神奈川県伊勢原市立大山小学校	4年
高原　明希	神奈川県横浜市立小机小学校	5年
村上　迦蓮	富山県魚津市立道下小学校	1年
村上ななみ	岐阜県安八町立名森小学校	5年
松本　悠孝	愛知県大口町立大口南小学校	1年
桂　　光琉	京都府亀岡市立曽我部小学校	3年

準特選

林野庁長官賞

関西銀一朗	神奈川県伊勢原市立大山小学校	6年
梅原　颯汰	静岡県沼津市立第三小学校	3年
松井　勇醐	島根県大田市立仁摩小学校	2年

渕野　章仁	兵庫県播磨町立播磨西小学校	3年
三好　佑善	兵庫県姫路市立四郷小学校	3年
井形　心咲	奈良県橿原市立真菅小学校	2年
松原　美結	島根県大田市立仁摩小学校	2年
林　　想真	香川県立香川中部養護学校	4年
宇都宮鮎佳	愛媛県八幡浜市立神山小学校	5年
江頭　佑貴	長崎県大村市立富の原小学校	4年
中瀬　歩	宮崎県椎葉村立小崎小学校	2年
坂口　雄哉	鹿児島県肝付町立宮富小学校	3年

中学校の部

特　選

文部科学大臣賞

藤本　敬人	和歌山県田辺市立明洋中学校	3年

農林水産大臣賞

佐伯　和香	兵庫県播磨町立播磨中学校	1年

入　選

国土緑化推進機構理事長賞

伊勢谷那月	北海道清里町立清里中学校	2年
藤田　若葉	岩手県北上市立江釣子中学校	1年
今野こはる	岩手県大船渡市立第一中学校	2年
内山　璃子	千葉県香取市立佐原中学校	3年
古川かりん	千葉県茂原市立東中学校	2年
設樂　七海	神奈川県秦野市立南中学校	1年

準特選

林野庁長官賞

菅原　真帆	宮城県栗原市立金成中学校	3年
髙瀬　詞音	静岡県浜松市立南部中学校	1年
谷川　楓香	徳島県徳島市富田中学校	2年

中島　梢	富山県富山市立岩瀬中学校	3年
柳瀬　萌那	愛知県一宮市立奥中学校	3年
菊地　伶奈	徳島県徳島市富田中学校	3年
花田龍之介	佐賀清和中学校（佐賀県）	2年
白瀬　碧翔	宮崎県延岡市立黒岩中学校	3年
川路　瑞奈	沖縄県西原町立西原東中学校	2年

高等学校の部

特　選

文部科学大臣賞・国土緑化推進機構会長賞

竹内　心織	熊本県立第二高等学校 （育樹運動ポスターとして採用）	2年

農林水産大臣賞

桶谷　奈央	石川県立工業高等学校	1年

入　選

国土緑化推進機構理事長賞

酒匂　藍子	神奈川県立神奈川工業高等学校	2年
中山　季子	石川県立工業高等学校	1年
山田　靖人	京都府立田辺高等学校	3年

準特選

林野庁長官賞

山田　向葵	茨城県立土浦第二高等学校	1年
高田　梨花	兵庫県立上郡高等学校	2年
島村　京花	岡山県立倉敷古城池高等学校	3年

峪　悠里子	和歌山県和歌山市立和歌山高等学校	2年
瀬谷　美樹	英明高等学校（香川県）	2年
三邨　美紗	香川県立高松工芸高等学校	2年

特選原画紹介

小学校の部

文部科学大臣賞

「大きくな～れ」
みんなで木のなえをうえて「大きくな～れ」とねがいをこめて書きました。緑いっぱいになりますように。

山梨学院小学校
（山梨県）2年
古屋（ふるや）　絵梨果（えりか）

農林水産大臣賞・国土緑化推進機構会長賞

国土緑化運動ポスター原画

「自然を守ろう」
女の子が自然を守っているところです。たくさんの人が自然を守り、緑をふやす気持ちをもってほしいなと思いながらかきました。

宮城県石巻市立
中津山第二小学校
4年
佐々木（ささき）　日和（ひより）

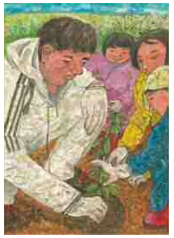
中学校の部

文部科学大臣賞

「未来を育てよう」
僕は、木を植えること、育てることは、自分たちの未来を育てていることにつながっているなと思います。だから、植樹の様子が朝日に照らされているところを描きました。

和歌山県田辺市立
明洋中学校
3年
藤本（ふじもと）　敬人（けいと）

農林水産大臣賞



「大きく育て！」
我子と共にこの若い苗木も大きく育ってほしいと願う親の心と、子どもたちにも植樹運動を続けてほしいという希望。

兵庫県播磨町立
播磨中学校
1年
佐伯（さえき）　和香（わか）

高等学校の部

文部科学大臣賞・国土緑化推進機構会長賞

育樹運動ポスター原画

「成長」
自然と私たちは一緒に大きくなり、一緒に生き、成長しているということを表しました。

熊本県立
第二高等学校
2年
竹内（たけうち）　心織（しおり）

農林水産大臣賞

「未来のために」
1人1人が緑化運動や植樹に参加することで、未来に緑が増え、自然環境が豊かになることを伝えたかった。

石川県立
工業高等学校
1年
桶谷（おけたに）　奈央（なお）

平成30年度緑化功労者

受賞者

農林水産大臣賞（感謝状）　3名

千葉県　木内兵太郎
愛知県　竹内明美
愛媛県　鈴木一幸

国土緑化推進機構会長賞（感謝状）　3名

青森県　濵田栄子
岩手県　横澤孝一
埼玉県　新井清

林野庁長官賞（感謝状）　7名

北海道　野々下聰
宮城県　沼倉忠大
静岡県　土屋勝利
滋賀県　辻宏朗
京都府　髙田明
山口県　藤原俊廣
徳島県　横山利治

国土緑化推進機構理事長賞（感謝状）　3名

群馬県　田中昌嘉
兵庫県　位上啓一
佐賀県　原二三夫

受賞者の紹介

農林水産大臣賞

木内兵太郎 氏
千葉県

氏は、農村の重要な景観要素である森林景観を整えることで、子どもたちや住民が森林に親しめるよう、森林整備・維持管理、森林環境教育、森林活用を長年にわたり継続実施してきた。

平成13年に、ボランティア国際記念シンポジウムに参加し、森林の維持管理・保全を強く意識し、翌年千葉県で開催された全国植樹祭プレイベントで森林整備と植樹苗木育成などを体験。同年、地元神崎町で特定非営利活動法人水と森と人とIN神崎を立ち上げ、森林景観整備活動を始めた。地権者と協定を締結し、整備した神崎町の約5haの森林はさわやかな景観が維持され、野外音楽フェスタ等の森林利活用のイベント開催地としても利用された。

さらに、平成20年から成田市で整備を進める約2haの森林では、景観整備、遊歩道管理作業を継続している。整備される前は荒れて人が近寄らなかった森林が、現在はゴミ投棄が減り、近隣住民の散歩コース、学生たちのランニングコースにも利用されるようになった。

森林活用にも積極的に取り組んでおり、整備した森林を地元神崎小の児童へ森林散策・木登りなどの森林体験の場として提供するとともに、手作りの竹炭を活用した料理をふるまう活動を行った。また同様の取組みを香取特別支援学校でも実施し、現在は森林体験活動の提供と併せて、子供たちの登下校見守り・防犯活動にも取り組んでいる。

平成19年には県の森林研究所と連携し、森林療法の実証実験や森林を活用した健康プログラムの作成を実施した。また、里山活動で信頼関係を築いた成田市の森林所有者（農家）提供のサツマイモを、新潟県、岩手県、宮城県、福島県の震災被災地で焼いてふるまった縁から、被災地で森林療法の講演を行った。

氏は、団体代表及び個人として、積極的かつ自発的に長きにわたり日々無報酬で活動を続けてきた。その活動は森林景観整備と併せた防犯パトロール・子どもの見守り活動、森林療法など活動領域を発展させ、森林整備を“環境保全”“防犯”“子どもの教育”“健康増進”へつなげる取組みである。このことは、森林の重要性を幅広い世代に普及啓発するうえで大変顕著な功績である。

竹内　明美 氏
愛知県

氏は、一般財団法人今枝愛林共生会の理事長として、幼児児童に対する緑化教育の推進に大きく貢献してきた。

当財団は、次代を担う幼児児童を対象に、緑と親しみ、緑を愛し、守り育てる「愛林思想」の普及啓発を図り、以って助け合い、励まし合う情緒豊かな人格の形成に資することを目的として緑化教育活動を展開しており、氏は、その中心的な役割を担っている。

幼児に対しては、紙芝居を活用した「愛林思想」の普及啓発がある。氏は、幼児が楽しみながら森林の役割について感じていくことができるように、毎年オリジナルの物語を考え工夫し、紙芝居にしている。この紙芝居は愛知県内の全市町村の保育園等に対し、毎年2千部を継続して配布している。この愛林紙芝居によって、森林の大切さについて、できるだけ多くの幼児に少しでも気づいていただくことが、当財団の願いであり、目標となっている。

また、児童に対しては、緑化意識の高い小学校への緑化資材の支援、みどりの少年団への活動支援及び優れた緑化活動を実施している学校の表彰がある。氏は長年、これらの学校緑化の推進に力を入れており、愛知県全体の緑化活動の底上げに貢献してきた。

更に近年では、イベント会場において、子供達への緑化木の配布や木材利用の普及啓発を行い、緑や木材に親しむ機会の提供にも努めている。

このように氏は、次代を担う幼児児童を対象に、長年、愛林思想の普及啓発に関して中心的な役割を担い、愛知県の緑化推進に大きく寄与しており、その功績は極めて顕著である。

鈴木　一幸 氏
愛媛県

氏は、長年にわたり、地元森林組合役職員として愛媛県の森林整備に貢献するとともに地域の環境教育の普及に寄与した。

県内でも早くから森林施業の集約化の必要性を説き、松山流域森林組合長に就任後は、組合の作業班に高性能林業機械を導入するとともに、森林経営計画を樹立するための合意形成に奔走し、地域林業の施業集約化を進めたほか、組合にオフセット・クレジットを導入し、地域の持続可能な森林経営の推進に大きな役割を果たした。また、近年は、県下でもいち早く精密林業の導入を進め、3Dレーザースキャナによる森林情報の取得や森林情報解析ソフトを用いた造材シミュレーションによる採算性の高い施業方法の普及に努めている。

さらに、原木価格の安定化を図り、年間を通じた県産材の安定供給を促進させるため、木材市場における競り売りを契約販売へ移行させる一大プロジェクトを主導するとともに、地域内での森林管理認証取得に向けて尽力するなど、地域林業の振興のみならず、森林の公益的機能の発揮にも大きく寄与し、緑豊かな山村を支えてきた。

また、地元小中学校の緑の少年団の活動を30年以上支援・指導しており、そうした活動の成果として、平成29年に開催された「全国緑の少年団活動発表大会」において、地元中学校（日浦緑の少年団）が最高位である「みどりの奨励賞」を受賞することとなった。

このように長年にわたり本県の森林林業及び木材産業の推進に尽力するとともに、地域の緑化活動のリーダーとして指導力を発揮し、次世代を担う人材の育成強化にも貢献するなど、その功績は極めて大きい。

国土緑化推進機構会長賞

濵田　栄子 氏
青森県

氏は、緑化関係団体の会員や大畑町及びむつ市議会議員として、長年にわたり地域の緑化活動に貢献してきた。

大畑町（現むつ市）が、大畑川上流の放牧採草地として借入していた国有林貸付地において、広葉樹を植栽し返地したが成長が芳しくなかったことから、大畑町林業振興対策協議会の会員として、森林管理署等と協力し平成15年から平成21年までブナ林の再生を目指し整備を行った。採草地のかき起こしのほか、支柱や幼齢木ネットを設置するなど工夫を凝らして植樹するとともに、下刈り等の保育を適切に実施し、現在は良好に成育している。

また、大畑川の優れた自然環境を保全するため、「青森県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例」（平成13年12月制定）による保全地域の指定を氏が関係者に働きかけ、平成16年に大畑川流域は保全区域に指定された。

そのほか、地域の景勝地となった国道279号大畑バイパスにある全長8kmの「来さまい大畑桜ロード」に成育する1,400本の桜並木に対し、命名募集や標柱を設置したほか、桜に関する研修会の開催などを実施した。

さらに、氏は幼年期から緑を通じた体験学習が必要と考え、平成28年から地元むつ市内の保育園・幼稚園に対し緑の幼年団の結成を働きかけ、平成30年11月に「よしの保育園みどりの幼年団」が結成された。現在も新規団体の結成に向けて働きかけている。

平成13年から平成17年までは大畑町議会議員、平成17年からはむつ市議会議員として緑化運動の推進に寄与する一方で、平成15年設立の「NPO法人森林・環境サポート大畑」の副理事長として他のNPO法人と協力し、下北半島森林環境シンポジウムの開催や市民参加型の植樹活動を行ってきた。個人としても森の案内人活動や巨樹古木の保全及び歩道整備等の管理に取り組んでおり、平成18年からは国有林フォレストボランティア員として森林パトロールや森林環境美化の活動を行っている。

以上のように、地域の山・川・海の保全、青少年への育成指導、森林ボランティアとしての活動等、緑あふれる地域づくりに大いに貢献しており、その功績は誠に多大である。

横澤　孝一 氏
岩手県

氏は、昭和39年から林業に従事し、翌昭和40年から平成元年まで、岩手県と福井県で造林業に従事した。平成2年から、岩手県に根を下ろし、平成19年には、地元の岩手町で横澤林業株式会社を設立して、造林と素材生産を行いながら、地域の林業振興に大きく貢献してきた。

横澤林業株式会社は、林業就業希望者の雇用の受け皿となるだけでなく、月給制の採用など、林業従事者の雇用改善にも取り組んできたほか、県が運営する「いわて林業アカデミー」の卒業生を採用するなど、若者の雇用創出にも積極的に取り組んでいる。

資源の循環利用を進めるため、氏は「伐ったら植える」をモットーにしており、素材生産を行った伐採地は、必ず植栽し、さらに4、5年間の下刈作業を行うなど、林業経営の継続性を確保して森林所有者に還元しており、地域からの厚い信頼を得ている。

また、平成17年から高性能林業機械を導入し、素材生産の効率化を進めるとともに、盛夏が過ぎた初秋以降に伐採、機械地拵えを行った後、翌春に植栽する一貫作業の体系を確立しており、造林作業の低コスト化を図りながら、再造林の推進に貢献している。加えて、コンテナ苗の活用や林業用除草剤の試験的施用も実施し、作業の一層の効率化を図っている。また、視察研修等も積極的に受け入れ、自ら培ってきた技術や経験を基にした指導も行っており、地域の林業技術の向上に果たしてきた役割は大きい。

さらに、持続可能な林業の構築のためには、生産された木材が安定販売される必要があるため、木材の計画的な供給を目的とするノースジャパン素材流通協同組合の設立に当初から参画し、これまで組合運営の中核を担ってきた。素材の出荷においては、合板工場等や木質バイオマス発電所に対する木材の安定供給に尽力するなど、常に組合員の先導的役割を果たしている。

このように、氏の長年における取組みは、多くの森林所有者や林業関係者から深く信頼されており、地域における林業振興への功績は誠に多大なものである。

新井　清 氏
埼玉県

氏は、小鹿野町立三田川中学校卒業後から50年間素材生産業を営み、その傍ら地元久月地区にある光西寺周辺に、30年にわたってシダレザクラを植えて育て、県内各地から花見客を迎える「しだれ桜の里」を造られた。

この「しだれ桜の里」は、“後々まで賑わいのある町であってもらいたい”との氏の思いから、平成元年、檀家・地区住民との100本植栽に始まり、数年をかけて植え足し、今日、200本ものシダレザクラが咲き誇る里となった。

これまでの30年間、氏は自主的に年2、3回の下刈を続けるとともに、檀家などと遊歩道や手すりを設置し、多くの方々が観桜できるように園内を整備してきた。

林業に関しては、製材所を経営する伯父の下、16歳で足場丸太用の間伐山を買い付けたことを始めに、25歳で金東木材を興し、65歳まで主に秩父地域で素材生産業を営んできた。

この間、隣接する比企地域に在る大河森林組合（現埼玉県中央部森林組合）の協力会社でもあり、他の協力会社と結成した親睦団体「森和会」の代表を17年間務め、組合事業の推進のほか、若手同業者の育成にも尽力された。

平成5年、県内初のプロセッサ実演会の開催にあたり、買い付けた立木の一部を無償で提供するとともに、引き続き自らプロセッサで造材を行うなど、林業普及事業への協力を惜しまず、林業技術への探求心は他の追随を許さない。

平成13年、大屋根架構に木材を使用した「埼玉県立武道館建設工事」への県有林材供給事業では、伐採時期の制約が加わり納期が迫る中で伐出作業を請負い、供給量の1/3となる約2千m^3を納めたことは、その後の県産木材の質・量に関する木材需要者の信頼度向上につながった。

また約30年間、小鹿野町有林約100haの保育作業や境界管理業務にも従事し、地元林業への貢献度も高い。

これらの実績により、平成14年度から埼玉県指導林家を務めていただいている。

80歳を迎えられた氏は、今も地元小学校の安全応援団や町の身体障がい者相談員を務め、第一線で地域活動に取り組む姿には敬服するばかりである。

以上のように、長年にわたる林業振興への貢献と緑化活動の功績は、余人をもっては代えがたく、誠に多大なものである。

平成30年度全日本学校関係緑化コンクール

学校林等活動の部

小学校の部

特　選
農林水産大臣賞・日本放送協会会長賞
愛知県　東浦町立藤江小学校

林内で遊ぶ児童

東浦町立藤江小学校の学校林は竹林を主体とし、児童の遊び場・学びの場として、遊歩道や炭小屋等の施設がある。

特徴的な学校林活動として、竹林整備で発生した竹を有効活用していることが挙げられ、竹炭を作る過程を学んだり、地域に竹炭を配布することや、地域の河川に水質浄化用として活用したりするなど、多岐にわたる活動を行っている。

また、児童が安全に遊び、学べるよう、学校林の整備や炭作り等の専門的な講師を地域ボランティアが引き受けており、地域のサポートも手厚いことが挙げられる。

このような取組は、地元の新聞や広報紙にも取り上げられ、地域の評価も高いものとなっている。

準特選
国土緑化推進機構会長賞
宮城県　柴田町立柴田小学校
山口県　美祢市立於福小学校
高知県　四万十町立東又小学校

入　選
国土緑化推進機構理事長賞
福島県　会津若松市立湊小学校
石川県　かほく市立大海小学校
長野県　箕輪町立箕輪西小学校
滋賀県　長浜市立永原小学校
鹿児島県　出水市立大川内小学校

中学校の部

準特選
国土緑化推進機構会長賞
愛知県　新城市立作手中学校
滋賀県　彦根市立鳥居本中学校

高等学校の部

特　選
農林水産大臣賞
大阪府　大阪府立刀根山高等学校

校内林の観察風景

「大阪府立刀根山高等学校」は、校内に戦前からの里山林が残され、地域における貴重な緑の景観を構成している。

本校の学校目標は『自ら未来を切り拓く　心豊かでたくましい人間を育てる』であり、学校林を舞台に地域の人々や大学の教員・学生との交流活動を通じて、学校目標を達成する一つの道筋にしたいと考えている。平成28年度からは、本校が企画した『刀根山・里山活用プロジェクト』により、平成30年度までの3年間、学校林を「人を育てる拠点」として、大学の教員や大学生を招いて、大学での研究手法の体験や大学生や地域の人々と交流できるプログラムを実施している。

また、敷地内の里山林は、生物科、家庭科などの教科学習でキノコやタケなどを生きた教材として活用しているほか、地元幼稚園・保育所には本校校内林を散策、ドングリ拾い、昆虫採集などの自然体験活動を安全に行える場所として活用していただいている。また、近隣住民を対象に動植物の観察や竹材利用、干し柿づくりなどの里山の恵みを活かした生活を学ぶ里山文化体験学習も展開されており、刀根山高校は、都市部にあって、地域の大人から子供まで幅広い年齢層の地域住民が、現代では失われつつある里山林を利用したかつての生活文化を経験し、学べるフィールドとして大いに活用されている。

準特選
国土緑化推進機構会長賞
北海道　北海道北見工業高等学校
秋田県　秋田県立二ツ井高等学校

学校環境緑化の部

小学校の部

特　選
文部科学大臣賞・日本放送協会会長賞
熊本県　熊本市立西原小学校

花壇で作業をする児童たち

本校は熊本市の中東部に位置し、阿蘇を源流とする一級河川『白川』のそばにある。53年前の開校当時、阿蘇から流れてきた「りんどう」の種が校庭に根付いて咲いていたというエピソードから、「りんどう」は校歌にも歌われ、学校のシンボルにもなっている。

本校は、創立時から学校緑化の推進に力を注ぎ、国や県・市の緑化コンクールにおいて歴年の受賞実績がある。平成以降は、「命をつなぐ、西原まごころプロジェクト」をスローガンに掲げ、緑化活動を通して、校訓である「誠実 努力 友愛」の育成に取り組んでいる。

平成28年4月、熊本地震が起こったため、プロジェクトは一度中断を余儀なくされたが、そのとき青森県の小学校からベゴニアの花をいただき、大変勇気づけられた。

そこで、花や木々の力で心の元気を取り戻し、緑の力のすばらしさを伝えたいとの願いから、児童の「次は私たちの番」という言葉を受け、命のリレーでつなげた種を西日本豪雨や北海道地震などで被災された小学校の児童に送った。

また、地域グリーンボランティアさん方との絆を深め、元気になるための薬草園を設けるなどの活動にも取り組んでいる。

このように、緑化を通して様々な「絆」を深め、つなげるよう日々活動している。

今後も学校と地域が一体となった緑化活動を推進させることで、子どもたちの豊かな心の育成に取り組んでいきたい。

準特選
国土緑化推進機構会長賞
栃木県　宇都宮市立城山中央小学校
愛知県　豊田市立若林西小学校
滋賀県　甲賀市立油日小学校

入　選
国土緑化推進機構理事長賞
宮城県　白石市立深谷小学校
福島県　会津若松市立大戸小学校
茨城県　東海村立白方小学校
埼玉県　川口市立芝小学校
愛媛県　松山市立正岡小学校
鹿児島県　鹿児島市立西紫原小学校

中学校の部

特　選
文部科学大臣賞
鹿児島県　十島村立諏訪之瀬島小・中学校

自生する竹を利用した防風柵

当校がある鹿児島県十島村は、鹿児島県本土から南へ延びる南西諸島に位置し、12の島（有人7島）からなり、南北160kmに及ぶ長い村である。当校は、その中で2番目に大きな「諏訪之瀬島」にある小中併設校である。島の中央部には今なお噴煙を上げる活火山を有し、風向きによっては学校周辺にも降灰があり、さらに島に吹く強風や塩害など植物を育てるには厳しい環境であるが、火山灰除去や塩害対策の散水など、児童生徒と教職員が一体となって学校緑化活動に取り組んでいる。

また、島の山林の多くを竹林が占め、防風林としての役割を担っている。この竹材を花苗の支柱や花壇を守る防風柵として活用することで、竹林の大切さを学ぶなど、島の特性を活かした活動を実践している。

緑化活動は中学生と小学高学年の児童が中心となり、低学年の児童もひとりひとり主体性を持って取り組むなど、小規模校の良さを活かした全員参加型の活動を行っている。夏休みには児童生徒会活動及び社会教育活動の一つとして木製プランターを作成し、花と一緒に住民に配布するなど、地域との交流を積極的に図っており、地域づくり活動における学校の存在は大きなものとなっている。

このように、地域の方々やPTAの御支援のもと、児童生徒自らが主体的に考え、互いに協力し合い、自然との共生を学びながら緑化活動を実践している。

準特選
国土緑化推進機構会長賞
広島県　東広島市立安芸津中学校

入　選
国土緑化推進機構理事長賞
秋田県　由利本荘市立大内中学校
埼玉県　深谷市立南中学校
熊本県　熊本市立詫麻中学校

高等学校の部

準特選
国土緑化推進機構会長賞　奈良県　奈良文化高等学校

協力者の部

協力賞
ノースロップ賞
（団体の部）
愛知県　春日井市立西尾小学校みどりのまちづくりグループ
高知県　特定非営利活動法人　朝霧森林倶楽部

（個人の部）
新潟県　山口　律子
熊本県　福井　俊介